

# Design Report

Toyama Design Center 2021

研究者／主任研究員 平野 尊治

「とやまD' DAYS」は、「会うことで生まれるデザイン」をキーメッセージにしたデザインイベント。第4回目となる今回のテーマは「ポストコロナ時代への対応」。

長引くコロナ禍の先を見据え、3名のスペシャルゲストにお話をいただきました。

01

ポストコロナ時代への対応「とやまD' DAYS 2021」



## ゲストトークに共通する「自然」と「可視化」

人間の様々な創造行為を、生物の進化と重ねて体系化する太刀川氏。都市生活における自然とデジタルの変化を読み取り、「ネイキッド」という時代のムードを導く藤原氏。世界的な環境課題の現状を、リアルタイムに可視化し発信する阿部氏。3名のゲストのお話には、「自然との関わりを見つめ直し」「見えないものを可視化する」という共通点があります。

「自然に学ぶ」「可視化する」という行為は、いずれもデザインの基本的な手法としてその根幹をなしてきました。今回3名のゲストのお話からは、創造行為と生物の進化を結びつけるという新しいアプローチや、日常の僅かな変化を感じとる繊細さ等、これまでの手法をアップグレードし、これからデザインが進む方向性をいくつも感じることができました。



太刀川 英輔 Eisuke Tachikawa

NOSIGNER代表／JIDA(公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会)理事長／進化思想家／デザインストラテジスト／慶應義塾大学特別招聘准教授

デザインの社会実装で美しい未来をつくること、自然から創造性を学ぶ「進化思考」を提唱し変革者を育てることを理念に活動する広義のデザイナー。社会的意義あるデザインで100以上の国際デザイン賞を受賞し、多くの賞の審査委員を歴任。主な著書に「進化思考」(海士の風、2021年)



藤原 大 Dai Fujiwara

デザイナー／DDI.(DAIFUJIWARA DESIGN INC.)代表取締役

中央美術学院国画系山水画科(中国北京)留学後、多摩美術大学卒業。コーポレート(一般企業)、アカデミー(教育分野)、リージョン(地域活動)のフィールドを捉え、多岐にわたる創作活動は世界から高い評価を受けている。独自の視点を生かし、企業のオープンイノベーションにおける牽引役としても活動している。国内外でのプロジェクトや講演など数多く実施。その他、受賞講演歴、多数。東京大学生産技術研究所研究員、多摩美術大学教授を務める。

## 「自然との関わり」を見つめ直し、「見えないもの」にアンテナを張る

阿部氏のお話では「今浮上している課題は、コロナ以前から社会に存在し続けていたもの」「これまで筋肉から脳へと移り変わってきたデザイナーの仕事は、今後、人の心を対象とするものへ…」という言葉が印象に残ります。

長引くコロナ禍を、社会全体を進化させる期間と捉え、人間の心の問題に寄り添いながら、新しい暮らし方に変換して提案する。そのためにまずは、見えない不安やその変化にアンテナを張ることが、ポストコロナ時代に向けた第一歩となるのかもしれませんが。



阿部 雅世 Masayo Abe

Masayo Ave creation | SXD.Lab (感覚体験デザイン研究所)代表

1990年より、欧州を拠点に国際的なデザイン活動に従事し、建築、デザイン、素材研究、デザイン教育などの幅広い分野で国際デザイン賞を受賞。デザイン活動の傍ら、2000年より、感覚体験を軸にした分野横断型の新しいデザイン教育プログラムの開発に携わり、ベルリン芸術大学、エストニア芸術大学、ベルリン国際応用科学大学で教授職を歴任。世界各地の大学で、感覚体験デザインのマスタークラスを展開するほか、プロや教員のためのマスタークラス、各地のデザインセンターやデザイン美術館と協力して、青少年のためのデザインワークショップを行っている。